

## ロシア

## 2015ロシア経済

2015年の実質GDP成長率(1次速報)は対前年比でマイナス3.7%となり、世界金融危機の影響を受けた2009年以降、6年ぶりのマイナス成長となった。この背景には、2013年のウクライナ問題発生後に導入された西側諸国による対ロシア経済制裁や同年夏以降に進行した国際市場における原油価格の下落などがある。ただ、四半期ベースでの動向を見ると、2014年第4四半期までは小幅ながらもプラス成長を維持していた。つまり、不利な外的環境の下で2013年後半から2014年まではなんとか持ちこたえていたが、2015年に入ってプラス成長を維持することができなくなった形だ。安易に断言はできないが、政府の危機対策が一定の効果を発揮し、経済制裁や油価下落の影響が出るのを1年程度遅らせることができたとも言えるのではない。

2015年は、消費も投資も低迷した。小売売上高は対前年比10.0%減、固定資本投資は同8.4%減だった。特に小売については、1998年のロシア金融危機の際の落ち込み幅(1999年は対前年比5.8%減)を大きく上回り、GDPのマイナス成長の大きな要因となった。実質貨幣可処分所得の減少幅をもはるかに上回る減少となっていることは、家計が財布のひもをきつく締めたということを示している。家計支出に占める消費の割合は、2014年の75.3%に対して2015年は71.2%へと低下しており、逆に貯蓄の割合は6.9%から14.1%へと大きく増えた。物価上昇が続いていることが、生活防衛的な家計行動につながっているのかもしれない。

2015年には鉱工業生産も減少したが、減少幅は3.3%であり、上述の各指標と比べれば健闘している。主要産業である石油・ガス産業を取り巻く環境が悪化しているにも拘わらず、鉱業部門は対前年比0.3%とわずかながら増加を記録した。これに対して、製造業部門は同5.4%もの大幅な減少となった。象徴的なのは乗用車生産で、2015年の減

少幅は27.7%にも達した。欧州ビジネス協会(AEB)によれば、2015年通年の乗用車販売台数は対前年比35.7%減少し、特に12月は対前年同月比45.7%減となるなど市況の悪化が著しい。

通貨ルーブルが大幅に下落していることは輸入代替の促進要因となるはずであるが、消費規模そのものが縮む中では、その効果はあまり期待できない。1990年代以降に何度も襲ってきた荒波を経て「危機」には慣れているロシア国民が、仮に「今回は用心した方がよいかも」を考えているようだと思態は深刻かもしれない。こうした心理を払拭するだけのインパクトを持つ出来事はなかなか想定しづらい。

## やはり頼りは石油・ガス産業か

上述の通り、厳しい経済状況の下で、鉱業部門は比較的安定している。具体的に、原油生産は対前年比1.3%増、石炭は同4.5%増だった。天然ガスは同2.6%減となったが、減少幅は小さい方だ。

2015年には、原油の輸出量は対前年比9.4%増加し、石油製品は同3.8%増、天然ガスは同6.4%増となって、いずれも増加した。ただし、価格の低下により、輸出額は大幅に減少した。例えば、ロシア産原油の指標価格である「Urals」の2015年の平均価格は前年を47.5%下回る1バレル51.2ドルとなり、原油の輸出総額は対前年比41.8%減の896億ドルにまで落ち込んだ。

事態が複雑なのは、油価の下落と軌を一にして通貨ルーブルも下落していることだ。米ドルに対する平均為替レートは2014年の1ドル38.4ルーブルから、2015年には61.0ルーブルに低下した。これにより、ドル建てでの大幅な輸出額減少にも拘わらず、ルーブルに交換されて国内に還元される輸出収入はさほど減少せずにすんでいる。厳しい外部環境の中でもロシアの社会・経済がパニック状態に陥らずにすんでいるのは、石油・ガス産業が輸出量を拡大して、最後の支えになっているおかげと言えるのではないかと。

(ERINA調査研究部長・主任研究員 新井洋史)

(対前年同期比)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2014				2015				2016			
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
実質GDP	▲7.8	4.5	4.3	3.4	1.3	0.6	▲3.7	0.6	0.7	0.9	0.4	▲2.2	▲4.6	▲4.1	—	—	—	—	
固定資本投資	▲13.5	6.3	10.8	6.8	▲0.2	▲1.5	▲8.4	▲3.1	0.2	▲0.2	▲2.7	▲4.7	▲8.8	▲13.0	▲6.4	▲3.7	▲6.5	▲8.1	—
鉱工業生産高	▲9.3	7.3	5.0	3.4	0.4	1.7	▲3.3	1.1	1.8	1.5	2.1	▲0.4	▲4.9	▲4.2	▲3.9	▲3.6	▲3.5	▲4.5	▲2.7
小売売上高	▲5.1	6.5	7.1	6.3	3.9	2.7	▲10.0	3.9	2.1	1.6	3.1	▲6.4	▲9.2	▲9.6	▲13.5	▲11.7	▲13.1	▲15.3	▲7.3
実質貨幣可処分所得	3.0	5.9	0.5	4.6	4.0	▲0.7	▲4.0	▲2.8	0.8	2.6	▲3.5	▲1.9	▲4.4	▲4.9	▲4.2	▲6.3	▲6.5	▲0.7	▲6.3
消費者物価*	8.8	8.8	6.1	6.6	6.5	11.4	12.9	2.3	4.8	6.3	11.4	7.4	8.5	10.4	12.9	11.2	12.1	12.9	1.0
工業生産者物価*	13.9	16.7	12.0	5.1	3.7	5.9	10.7	2.3	4.3	5.2	5.9	9.2	11.5	12.0	10.7	13.9	13.2	10.7	▲1.2
輸出額(十億ドル)**	301.7	397.1	516.7	524.7	527.3	497.8	343.4	122.7	132.9	126.0	116.3	90.3	91.6	79.3	82.3	27.5	25.8	29.0	—
輸入額(十億ドル)**	167.3	228.9	305.8	317.3	315.0	286.7	182.4	66.9	75.5	75.0	69.3	42.0	44.8	47.5	48.1	16.2	15.6	16.3	—

\*前年12月比。

\*\*税関統計ベース。

\*\*\*斜体は暫定(推計)値。

出所：「ロシアの社会経済情勢(2015年11月、12月号；2016年1月号)」ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料